

全校朝会 「 ウォルト・ディズニーの言葉 —失敗から学ぶ— 」

令和7年12月2日 (火)
奥沢小学校長 前田 恵里

このキャラクターは誰もが知っていると思われるミッキーマウスです。ディズニーのキャラクターの絵を学校で探してみると、5分でこれだけ見つかりました。今週金曜日は、小さい子どもから大人まで、男女問わず人気のあるミッキーマウスの生みの親であるウォルト・ディズニーの誕生日です。ディズニーランドを考案したのもウォルト・ディズニーです。ディズニーは、アメリカで生まれ、鉛筆を持てるようになるとすぐに絵を描き始めたそうです。お家にはお金があまりなく、自宅の農場の仕事を手伝ったり、新聞配達の仕事をしたりしていましたが、大好きな絵を描き続けていました。



18歳になると漫画家になりたいと思いましたが、なかなか仕事は見つかりませんでした。それでも諦めず漫画家になった後、アニメーション映画に興味をもち、21歳頃に友達数人でアニメーション映画の会社を作りました。しかし、間もなく会社は倒産。今度は映画監督になろうとしましたが、これもうまくいかず、兄と二人で、1923年に映画を作る会社を作りました。社員も雇い人気作品を出して、ようやく調子が良くなったと思いきや、社員がほかの会社に引き抜かれてしまいました。

しかし、ディズニーはへこたれず、次の手を考えました。そこで生まれたのがミッキーマウスです。当時、映画は音が出ないもので、逆に音が出ない方が良いとされていましたが、音声のある映画こそ未来の映画であると信じ、四苦八苦しながら完成させた映画が「蒸気船ウィリー」であり、ミッキーマウスが出ています。この映画の特別試写会が1928年の11月18日だったので、その日がミッキーマウスの誕生日になっています。その後、ディズニーは、苦労を重ねて世界初の長編のアニメーション映画「白雪姫」も大ヒットさせました。

そして次は、広大な遊園地ディズニーランドの計画に移りました。ディズニーランドを完成させるには、莫大なお金が必要です。ディズニーは銀行にお金を借りるためのお願いをしますが300回断られたそうです。300回以上のお願いでようやく借りられて、テレビ会社も貸してくれて、1955年にディズニーランドを作ることができました。もし、300回で諦めてしまったら、ディズニーランドは生まれなかつたかもしれません。数々の失敗や試練を乗り越えたディズニーはこんな言葉を残しています。

「失敗したからって何なのだ？失敗から学びを得て、また挑戦すればいいじゃないか。」

さて、今週末には奥沢発表会があります。練習も大詰めでしょう。オーディションで失敗し、練習で失敗して友達に迷惑をかけた、なかなか上手にできない、いろいろなことがあります。しかし、その後にどうするのかがとても大切です。失敗から学び、挑戦し続ける気持ちをここで身に付ければ、奥沢発表会の成功があり、そしてその先に、将来、夢ある未来を創ることがえてくることに違いありません。